土木森林環境委員会　県内調査活動状況

１　日　　時　　平成２８年１１月８日（火）

２　委員出席者（８名）
　委員長　　早川　浩
　副委員長　　山田　七穂
　委員　　皆川　巖　　渡辺　英機　　白壁　賢一　　塩澤　浩
　　水岸　富美男　　小越　智子

３　委員欠席者　なし

４　地元議員の出席状況（県営林道滝沢線周辺の調査に出席）
　　渡辺　淳也 議員（富士吉田市）

５　調査先及び調査内容

（１）【県営林道滝沢線周辺】（富士吉田市上吉田地内）

〇調査内容
　現地にて、当事業の概要説明を受けた後、視察を行いながら質疑を行った。

（２）【意見交換会】

①出席者
　中曽根沿線まちづくり地区協議会会員

②内　容
　意見交換
　テーマ：「世界遺産富士山の麓、国道 139 号（中曽根地区）沿線まちなみづくりについて（電線類地中化による道路整備）」

主な意見

委　員）協議会の話を伺い、全国どこでも抱えている問題であるドーナツ化現象に当てはまると思った。しかし、現在の甲府市中心部でも見られているが、郊外から街の中心部に多くの人が移り住んで来て人口がふえている。建設されたマンションには、下の階にコンビニや病院などあり、郊外にはない便利な生活ができるためである。これらは、コンパクトシティーの考えに当てはまり、歩いて暮らすことを楽しむようになっている。また、観光客も歩いていて楽しい街を求めている。川越市などはこれに当てはまるのではないか。まちづくりの基本は、歩いて楽しさを感じられる街ということが大切である。また、観光客による個人商店の繁栄を結びつける考え方もあり、これは昼間人口に繋がるものだと思う。これからは大型店舗のある郊外から中心に人が戻ってくる時代ではないかと思っている。

出席者）我々も委員の指摘の狙いを持っての電線地中化などのまちづくりを進めている。目の前には富士山があるわけで、金鳥居の前にある中曽根地区は、明治時代、土産物店やいわゆるお休み処があり、大変にぎわっていたと聞く。協議会が目指しているのは、中曽根地区の商店街に観光客も含めて多くの来訪者を迎え、川越のように人々に散策してもらうことである。そのような、まちづくりを実現するには地域住民だけでは達成が難しいので、富士吉田市と協力しながら何かポイントになるものを地域に作り、金鳥居から下へ観光客の皆さんに来てもらい、地域の皆さんも集まれるようなまちづくりをしていきたい。

委　員）拠点と言うことで、現在、鳥居があるがその下にも第２鳥居をつくったらいいのではないかと言う意見もある。

委　員）出席者からのお話を聞いて大変嬉しく思っている。昔学校へ行くのに通った所でもあり、最近は寂しい想いをしていた。中曽根地区電線類地中化事業に対して、商店街の皆さんはほとんど賛成しているという状況か。

出席者）事業説明会では、反対という方はいなかった。しかし、事業が始まると、道路が片側３メートル広がるということでその場所に住めなくなることも出てくる。用地交渉になれば個別の事情から問題が生じると思うが、行政のみではなく協議会も一緒になって事業を良い方向に進めていきたい。

委　員）先ほどの話で、用地買収をする上で地権者と居住者が異なるというようなことを言われていたがそのような事例は多いのか。

出席者）何件かあるが、協議会を開催する中で皆さんの意見を聞きながら、協議会で対応していかなければと常々話をしている。

委　員）完成イメージを見ると金鳥居から富士山を眺められる、景観形成という面からも大変良い事業だなと感じるので、なんとか成功してもらいたい。

出席者）この事業が成功すれば富士吉田市にとっても大きなメリットであることから、推進したいと考えている。

委　員）我々の立場の中でできるだけのことはしていきたいと思っている。

委　員）私の地元である韮崎市も、昔から宿場町として商店街がにぎわってきた歴史があるが、３０年余り前に電線類を地中化し、歩道を拡幅して中心街にお客さんを呼ぼうと事業を実施した。当時はバブル全盛期の頃で、何をやっても儲かるという感覚があり、まちづくりという視点においては考えていなかったと思う。今になれば、反省することがあると感じている。そこで、中曽根地区では現在商売をやっている方が事業完成後も引き続き商売を続ける意向があるのか。また、これからのまちづくりにおいて、来訪者の意見など取り入れて行く考えはあるか。

出席者）沿線で店舗営業をしている人たち、特に次の世代の人々を中心に、より具体的なまちづくりについて、平成２６年から検討を進めてきた。新しくなってもやる気の出るようなまちづくりをしようという中で、統一的な意見をまとめて来た。

委　員）商店街の方々が中心になってまちづくりを検討しているとのことだが、一番大事なのは来訪者の考えだと思う。これからのまちづくりにおいて、来訪者の意見など取り入れて行く考えはあるか。

出席者）来訪者の意見を聞くといったことは現在の所行っていない。まちづくりとして大切なことは、ただきれいな町並みをつくることではなく、商売をやっている方々のやる気を起こさせ、個々のノウハウを蓄積し、勉強を重ねて行くことが重要であると考えている。

委　員）韮崎市では道路拡幅において、町並みの統一感を余り持たなかった。この地域には富士山があることから商店街を形成する際には、イメージが湧く統一感を持って事業を進めてもらえればと思う。

出席者）協議会では、作業部会をつくって専門家の指導を受けながら、まちづくりの勉強を重ね、統一した町並みづくりができるような提言をしてもらっている。金鳥居から上の、上吉田地区も電線類地中化をしたが、道路拡幅をしないでそのままの幅で行った。そのため、電線も撤去できていない所があったり街路灯も高いため狭隘に見えてしまうように思う。中曽根地区では事業について、平成２３年に県知事に要望書を出したが震災の影響で進まなくなってしまった。その後、拡幅しないで進める案も出されたが、最初の計画どおり片側３メートル拡幅して素晴らしいまちをつくろうということに意見集約された。そのため、中曽根地区においては、統一したまちづくりのために、個々の負担は生じるが、用地を手放しても事業を推進する考えである。

委　員）統一的な景観ということで、富士吉田市でも昨年から景観形成計画を作成して頂いて、今年からスタートしている。

委　員）当地域の電線類地中化は事業化されており景観形成の補助金も得られるということなので、地域の皆さんによる用地買収など協力が得られれば、事業は推進できるものである。

出席者）地元がまとまれば早く事業も進む。

委　員）事業の障壁になっていることや、事業を推進して行く上で地域として何を望んでいるのか、この際なので聞かせてもらいたい。

出席者）新倉トンネルが出来たことで、甲府方面から来て中央通り線を通行する車両がものすごくふえた。協議会として中曽根交差点からの景観というものは一番のポイントになると考えている。そのため、上吉田地区のような中途半端ではない、町並みづくりをしたいと思っており、作業部会長に中心になってもらって、伊勢のおかげ横丁のような街をつくりたいと思っている。

委　員）例えば冬場でも雪かきしなくて良いように、歩道にロードヒーティングを入れるとか、他の地区とは違う特色を出すことが重要であるので、皆さんの意見を沢山聞かせてもらいたい。

出席者）本日の意見交換会を行ったことから、成果を得られればと思う。今後、具体的な要望事項を出させてもらう。

委　員）事業認可が出ているので、具体的なご要望とかご意見を聞き進めていかなければならない。

委　員）多くの人が訪れるまち、例えば横丁とか小路っていうのは歩道を広くして歩きやすくした方が良いと思う。人々が歩きやすいことが大切である。また、津和野や川越にしても人の集まる所には歩道の脇に水辺がある。

出席者）当地区は、勾配がきついため水辺というものはつくりづらい。

出席者）市と協力して観光客を呼べるものをつくりたいと思っている。

委　員）このあたりは北冨士本宮浅間神社の門前町ということか。

出席者）御師まちの門前町ということになる。

委　員）地区のみなさんが意見を出し合って、行政と一緒に町並みづくりを考えるというのは素晴らしいことである。まちなみづくり指針をまとめるにあたり、住民との合意形成をどのように行ったのか。また、まちなみづくりの指針が、合意に至った経緯と行政とはどのような調整をしたのか、教えて欲しい。

出席者）中曽根地区は、昔大変活性化した商店街であったが、今は他の多くの地区同様、シャッター通りになってしまっている。そのため、地域に人を集めたいという想いが強くあった。金鳥居までは人が来るがその後が続かない。統一した店舗を建てて、多くの人々を呼ぶという考えを持って、地区協議会や作業部会が活動をしてきて今日に至っている。

委　員）このまちなみづくり指針の策定に至った、富士山とか御師のまちといった内容について過程はあるのか。

出席者）平成２５年の８月に作業部会を作って、どういう町並みが良いか議論を重ね、指針ができた。

委　員）統一したまちづくりには、住民もお金を要する話であることから、「困る」といった話はないのか。

出席者）この前の地区総会でも、用地買収と建物補償について心配する声が出た。県担当者にも伝えたが、それが一番の問題になっていることは間違いない。そうしたことも踏まえて地区の皆さんにご協力頂く。

委　員）統一感を持たせるためにはお金もかかるので、何かしらの補助がないと大変だと思う。

出席者）商店等を営んでいない住民に対し統一感を強制するわけにはいかない。課題として考えている。

委　員）再開発は若い人がどれくらいやる気があるかといった熱意が大切だと思う。私の地元である昭和町は、土地区画整理を行い減歩により身も削りながら町並みづくりを進めて来た。町並みづくりにおいては、それぞれの土地所有者が覚悟を決めて進める必要があると思う。離脱者が出ないようにまとまって進めていってもらいたい。

出席者）用地交渉などにおいては、行政だけに任せるのではなく協議会も協力して行いたいと思っている。

委　員）今回の中曽根地区は、上吉田地区とは異なる町並みになると思うが何か連携しているのか。

出席者）特に連携はしていない。上吉田地区は電線類の地中化も既に終わっている。こちらは御師まちではないからより素晴らしい町並みをつくらないとお客さんを呼べないという想いがある。片側３メートル拡幅するというのは大変な決断である。そこまでしても、町並みづくりをしようと皆考えている。

委　員）子どもの頃、月江寺の駅で電車を降りて中曽根地区周辺の商店街に来た思い出がある。事業がイメージどおりに歩道が広がり景観も良くなることで、火祭りももっと活性化すると思う。速やかに完成してにぎわいを取り戻してもらえればと思う。そこで、本事業の地権者はどのくらいいるのか。

委　員）冨士東部建設事務所吉田支所職員（以下支所職員）に回答してもらう。

支所職員）２０数店舗が補償対象であり、地権者・関係者は概ね１００名です。

出席者）土地所有者と住居者が異なる店舗が数件ある。

委　員）これからは、協議会の皆様から発言を頂きたい。

出席者）用地買収における補償は、県と市どのような割合で行ってくれるのか。他の人からもよく聞かれる。

委　員）支所職員に回答してもらう。

支所職員）本事業は県の道路事業でありますので、国の補助金を活用し補償対象の物件に対して県が全て補償します。

出席者）県の事業はわかるが、補償の割合を知りたい。

支所職員）補償の対象物件について、１００パーセント県が補償します。

出席者）色んな意見が出て今後の参考になるが、交流人口を増やすために、中曽根地区の入口に委員長が言ったように第２金鳥居と駐車場をつくれば多くの来訪者を迎えられるのではないか。

委　員）スマートインターチェンジができれば、下吉田方面からの車両がふえるのではないか。

出席者）物件の移転等について、本社と話をしていきたい。用地交渉をスムーズに進めるため、事業の具体的なスケジュールを早く教えてもらいたい。

出席者）通りで商店をしているが、来訪者を多く迎えるために馬車や路面電車など新しい考えも必要ではないか。昔は馬車鉄道が大月まで行っていた。

出席者）単なる電線類地中化ならスムースに行くと思うが、まちづくりと一緒になるといろいろ大変になる。しかし一日も早く実現して欲しい。

出席者）電気屋を営んでいるが、町並みづくりによって街路灯がどのような形状になるのか興味がある。また、当地を離れてしまった子どもたちが戻りたいと思うようなまちをつくりたい。

委　員）電線類の地中化や町並みづくりにおいては、県・市・個人それぞれの役割がある。街路灯は、商店街などの役割である。子ども達が帰ってくるようにするために、象徴的なものがあると良い。

出席者）町並みづくりには、ポイントになるものを考えることが大切だと感じた。人が訪れたいと思わせるようなものが当地に欲しい。第２鳥居とか富士講の銅像や禊ぎの池のようなものなどを目玉として整備出来たら良いと思う。そういうものがないと、金鳥居から下に人が来ない。

委　員）　様々な意見を伺った。当地区の町並みづくりの活動が富士吉田市だけでなく、県のトップランナーとして、また、富士山の麓としてまちづくりのリーダーになってもらえればと思う。以上で、意見交換会を終了する。

意見交換会の様子